



2025年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2024年7月30日

上場会社名 ブロードメディア株式会社
コード番号 4347 URL <https://www.broadmedia.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 橋本 太郎

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理本部長 (氏名) 押尾 英明

TEL 03-6439-3983

配当支払開始予定日

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第1四半期の連結業績(2024年4月1日～2024年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第1四半期	4,197	18.0	226	37.1	245	37.9	94	66.2
2024年3月期第1四半期	3,556	11.0	360	24.4	394	25.3	278	2.3

(注) 包括利益 2025年3月期第1四半期 105百万円 (62.3%) 2024年3月期第1四半期 278百万円 (6.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第1四半期	13.02	
2024年3月期第1四半期	38.34	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2025年3月期第1四半期	11,021	5,579	40.4	621.73
2024年3月期	11,890	5,909	40.2	656.25

(参考) 自己資本 2025年3月期第1四半期 4,454百万円 2024年3月期 4,774百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2024年3月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期		0.00		33.00	33.00
2025年3月期(予想)		0.00		40.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年3月期の連結業績予想(2024年4月1日～2025年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	17,000	19.9	1,000	15.1	1,000	9.9	800	17.6	112.07

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年3月期1Q	7,500,000 株	2024年3月期	7,914,732 株
期末自己株式数	2025年3月期1Q	335,061 株	2024年3月期	638,623 株
期中平均株式数(四半期累計)	2025年3月期1Q	7,228,843 株	2024年3月期1Q	7,269,404 株

添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因によって異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等の注記)	11
(収益認識関係)	13
(重要な後発事象)	14

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間における売上高は、前年同期と比べ640,461千円(18.0%)増加し、4,197,388千円(前年同期は3,556,927千円)となりました。「メディアコンテンツ」「スタジオ・プロダクション」は減収となりましたが、「教育」「技術」「その他」が増収となったこと等により、売上高は増加いたしました。前期第4四半期に子会社化した(株)div及び(株)divxはそれぞれ「教育」及び「技術」の増収に寄与いたしました。

営業利益は、226,618千円(前年同期は360,139千円)となりました。「放送」が増益となり、「その他」が利益を計上したものの、「教育」「技術」が減益となったことや「スタジオ・プロダクション」が損失となったこと等から、減益となりました。

経常利益は、245,024千円(前年同期は394,553千円)となりました。営業利益が減少したこと等により、経常利益も減益となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、94,112千円(前年同期は278,713千円)となりました。経常利益が減少したことに加え、完全子会社ではない(株)div及び(株)divxは税務上のグループ通算制度の適用を受けないため、損失が親会社株主に帰属する四半期純利益に直接影響したこと等により、大幅な減益となりました。

(2024年6月30日現在)

セグメントの名称	事業内容	主な業務の内容	主な連結子会社
教育	通信制高校	・イーラーニングシステムを利用した単位制・広域通信制高校「ルネサンス高等学校グループ」(「ルネサンス高等学校」「ルネサンス豊田高等学校」「ルネサンス大阪高等学校」)の運営	—
	日本語教育	・日本語研修・日本語教師養成講座を提供する「ルネサンス日本語学院」の運営	—
	プログラミング教育	・プログラミングスクール「テックキャンプ」等の運営	(株)div
メディアコンテンツ	デジタルメディアサービス	・ビデオ・コミックサービス「クランクイン!ビデオ」、「クランクイン!コミック」の提供 ・エンタメ情報サービス「クランクイン!」、「クランクイン!トレンド」の企画・運営 ・テレビ放映権の販売、VOD権の販売、DVD/Blu-rayの販売	—
スタジオ・プロダクション	制作事業	・日本語字幕・吹替、聴覚障がい者向け字幕、視覚障がい者向け音声解説、番組宣伝等の制作	—
放送	釣り専門チャンネル	・衛星基幹放送事業「BS釣りビジョン」の番組制作、放送及び、ケーブルテレビ局等への番組供給 ・映像の受託制作	(株)釣りビジョン
	釣りビジョンVOD	・「釣りビジョン倶楽部」の運営 ・動画コンテンツ提供事業者向けの釣りコンテンツの提供	
技術	アカマイサービス	・コンテンツを最適な形で配信する「CDNサービス」、「セキュリティサービス」の提供	—
	クラウドソリューション	・クラウドゲームサービスの提供 ・通信事業者へのクラウドゲームプラットフォーム提供及びゲーム事業者へのクラウドゲーム機能提供 ・スマートフォン向けクラウドゲームアプリの提供	Oy Gamecluster Ltd.
	デジタルシネマサービス	・配給会社へブロードメディア®CDN for theater (DCP配信サービス)の提供 ・映画館へ上映システム的设计、販売、レンタル及びメンテナンスサービスの提供	—
	ホスピタリティ・ネットワーク	・ホテルの客室・会議室へのインターネットサービスの提供、機器の監視及び保守サービスの提供	—
	DX・システム開発		・設計からソフトウェア開発、保守運用までワンストップのシステム開発の提供
・AI技術を活用したソフトウェア開発及びソリューションの提供			(株)divx

セグメントの名称	事業内容	主な業務の内容	主な連結子会社
技術	その他ソリューションサービス	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルに展開されたプライベートネットワーク「Aryaka」等の提供 ・画像解析技術を駆使した小売業向け次世代型AIソリューション「Vue.ai」の提供 ・CM素材をオンラインで搬入する「CMオンラインサービス」の提供 	—
その他	プロeスポーツ推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・プロeスポーツチーム「CAG OSAKA」の運営 ・eスポーツ関連イベントの企画・運営 	ブロードメディアeスポーツ(株)
	ゲームパブリッシング事業	<ul style="list-style-type: none"> ・Nintendo Switch向けのゲームソフトやVR専用ソフト等の企画・開発・販売及び配信 	(株)ポケット
	全社費用	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロードメディア(株)本社の管理業務(人事総務、財務経理、法務等)及びグループ会社の統括管理 ・グループ全体の支援(生産性向上・効率化・ガバナンス強化等) 	—
	持分法適用関連会社(注)	<ul style="list-style-type: none"> ・全テレビ番組録画機の企画・製造・販売、及びテレビ番組ソーシャルサービスの運営 	ガラポン(株)

(注) 「持分法適用関連会社」に含まれる事業は、報告セグメントには含まれておりません。

当第1四半期連結累計期間におけるセグメントごとの売上高及び営業損益の概況は、以下のとおりです。

①教育

「教育」セグメントは、「ルネサンス高等学校」「ルネサンス豊田高等学校」「ルネサンス大阪高等学校」の広域通信制高校(ルネサンス高等学校グループ)の運営、日本語研修・日本語教師養成講座を提供する「ルネサンス日本語学院」の運営、及びプログラミングスクール「テックキャンプ」等の運営を行うプログラミング教育事業を行っております。

売上高は、前年同期と比べ372,017千円(28.9%)増加し、1,661,358千円(前年同期は1,289,340千円)、営業利益は394,754千円(前年同期は475,314千円)となりました。

通信制高校事業は、ルネサンス高等学校グループの在籍生徒数が増加したこと等により、増収増益となりました。また、新たなキャンパスの開校や既存拠点の拡大により、eスポーツコースを含む通学コースの生徒数が順調に増加したことも増収増益に寄与いたしました。

前期第4四半期より連結子会社となった(株)divは、当期は第1四半期より取り込んでいることから売上の増加に寄与いたしました。損失を計上したことに加え、のれんの償却を計上したことにより、「教育」セグメントの利益を押し下げる要因となりました。その結果、「教育」セグメントは増収減益となりました。

②メディアコンテンツ

「メディアコンテンツ」セグメントは、ビデオ・コミックサービス「クランクイン!ビデオ」「クランクイン!コミック」やエンタメ情報サービス「クランクイン!」「クランクイン!トレンド」の企画・運営等を行っております。

売上高は、前年同期と比べ34,597千円(21.4%)減少し、126,937千円(前年同期は161,535千円)、営業損益は41,808千円の損失(前年同期は41,640千円の損失)となりました。

エンタメ情報サービスは前年同期と同水準の売上高となったものの、ビデオ・コミックサービスは減収となり、また、前期末にコンテンツ販売事業が終了したこと等から、売上高は減少いたしました。一方で、コスト抑制効果により営業損失は前年同期と同水準となりました。

③スタジオ・プロダクション

「スタジオ・プロダクション」セグメントは、海外の映画及びテレビ作品の日本語字幕・吹替制作、聴覚障がい者向け字幕制作、視覚障がい者向け音声解説制作、番組宣伝等の制作を行っております。

売上高は、前年同期と比べ24,996千円(6.5%)減少し、359,822千円(前年同期は384,819千円)、営業損益は33,690千円の損失(前年同期は797千円の損失)となりました。

日本語字幕・吹替制作において、前期に発生した米国ハリウッドの全米脚本家組合(WGA)や全米映画俳優組合(SAG-AFTRA)のストライキの影響により、映画やドラマ作品の公開延期や作品数の減少が続いていることから受注が減少し、減収となり、損失が拡大いたしました。

④放送

「放送」セグメントは、釣り専門番組「釣りビジョン」の制作、BS・CS放送及びケーブルテレビ局等あての番組供

給事業、マルチデバイス向け動画配信サービス「釣りビジョンVOD」の視聴が可能な「釣りビジョン倶楽部」の提供等を行っております。

売上高は、前年同期と比べ2,978千円(0.5%)増加し、582,623千円(前年同期は579,644千円)、営業利益は37,278千円(前年同期は17,673千円)となりました。

「釣りビジョン倶楽部」が増収となったことに加え、「釣りビジョン」のスポンサー収入や広告料収入が増加したことが、減少傾向が続いている視聴料収入の減収を補い、売上高は微増となりました。また、営業利益はコスト抑制効果により増益となりました。

⑤技術

「技術」セグメントは、アカマイサービス(CDNサービス、セキュリティサービス)、クラウドソリューション、デジタルシネマサービス、ホテルの客室・会議室へのインターネットサービス、DX・システム開発、及びその他ソリューションサービスの提供を行っております。

売上高は、前年同期と比べ197,623千円(17.9%)増加し、1,298,697千円(前年同期は1,101,073千円)、営業利益は48,066千円(前年同期は112,313千円)となりました。

主力のアカマイサービスは売上高、利益ともに前年同期と同水準となりました。クラウドソリューションは提携先プラットフォームのサービスが終了したこと等により減収となり、赤字幅が拡大いたしました。また、システムデザイン開発(株)はシステムの受託開発等の売上が増加し、増収となったものの、原価が増加したこと等により損失を計上いたしました。

前期第4四半期より連結子会社となった(株)divxは、当期は第1四半期より取り込んでいることから売上の増加に寄与いたしました。損失を計上したことに加え、のれんの償却を計上したことにより、「技術」セグメントの利益を押し下げる要因となりました。これらの結果、「技術」セグメントは増収減益となりました。

⑥その他

「その他」セグメントは、プロeスポーツチーム「CAG OSAKA」の運営やeスポーツ関連イベントの企画・運営、Nintendo Switch向けのゲームソフトやVR専用ソフト等の企画・開発・販売が含まれております。

売上高は、前年同期と比べ127,435千円(314.5%)増加し、167,949千円(前年同期は40,514千円)、営業損失は15,665千円の利益(前年同期は21,188千円の損失)となりました。

プロeスポーツ推進事業は、大会の出演料や獲得賞金は増加したものの、ライセンス収入が減少したこと等により、売上高、営業損失ともに前年同期と同水準となりました。その一方で、ゲームパブリッシング事業は、大型開発案件の受託や新規タイトルのリリースにより、大幅な増収となり、利益を計上いたしました。その結果、「その他」セグメントは増収となり、黒字に転換いたしました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

①資産、負債及び純資産の状況

(イ) 資産

流動資産は、BS放送に係る衛星利用料を前払いしたことで前払費用が増加した一方、現金及び預金が減少したこと等により、前期末に比べ756,302千円減少し、7,062,389千円となりました。固定資産は、通信制高校事業の拠点拡大に伴う資産の取得があった一方、長期繰延税金資産が減少したこと等により前期末に比べ112,182千円減少し、3,959,305千円となりました。これらの結果、総資産は、前期末に比べ868,485千円減少し、11,021,694千円となりました。

(ロ) 負債

流動負債は、預り金が増加した一方、前受金や賞与引当金が減少したこと等により、前期末に比べ484,342千円減少し、4,618,581千円となりました。固定負債は、長期借入金や長期リース債務が減少したこと等により前期末に比べ55,058千円減少し、823,162千円となりました。これらの結果、負債合計は、前期末に比べ539,400千円減少し、5,441,743千円となりました。

(ハ) 純資産

親会社株主に帰属する四半期純利益94,112千円を計上した一方、配当金の支払いや自己株式取得を行ったことによる利益剰余金の減少等により、純資産合計は前期末に比べ329,084千円減少し、5,579,950千円となりました。これにより、自己資本比率は40.4%となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第1四半期末における現金及び現金同等物の残高は、前期末に比べて1,099,613千円減少し、4,726,658千円と

なりました。

(イ) 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、マイナス571,732千円(前年同期はマイナス224,840千円)となりました。税金等調整前四半期純利益245,024千円を計上したことに加え、預り金が増加した一方で、前受金が減少したことや売上債権の増加、賞与の支払いがあったこと等により、営業活動によるキャッシュ・フローはマイナスとなりました。

(ロ) 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、通信制高校事業の拠点拡大に伴う固定資産の取得があったこと等から、マイナス63,530千円(前年同期はマイナス63,939千円)となりました。

(ハ) 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払いに加え、自己株式の取得や借入金の返済による支出があったこと等から、マイナス477,624千円(前年同期はマイナス248,397千円)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年5月10日に公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,826,271	4,726,658
受取手形及び売掛金	1,355,880	1,555,678
商品及び製品	14,890	11,420
仕掛品	150,144	127,397
原材料及び貯蔵品	2,396	4,419
番組勘定	234,395	231,589
その他	345,237	524,734
貸倒引当金	△110,524	△119,509
流動資産合計	7,818,691	7,062,389
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	345,511	369,812
工具、器具及び備品（純額）	221,615	225,873
その他（純額）	259,166	248,690
有形固定資産合計	826,293	844,376
無形固定資産		
のれん	1,747,380	1,721,020
その他	101,903	95,007
無形固定資産合計	1,849,284	1,816,027
投資その他の資産		
投資有価証券	164,267	174,636
破産更生債権等	554,510	553,800
その他	1,255,402	1,144,297
貸倒引当金	△578,269	△573,833
投資その他の資産合計	1,395,911	1,298,901
固定資産合計	4,071,488	3,959,305
資産合計	11,890,179	11,021,694

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	460,830	473,838
短期借入金	650,596	644,164
1年内償還予定の社債	30,000	30,000
未払法人税等	141,277	51,909
前受金	2,478,065	1,930,586
賞与引当金	328,322	97,692
その他	1,013,831	1,390,390
流動負債合計	5,102,923	4,618,581
固定負債		
社債	30,000	30,000
長期借入金	573,097	528,487
その他	275,123	264,675
固定負債合計	878,220	823,162
負債合計	5,981,144	5,441,743
純資産の部		
株主資本		
資本金	600,000	600,000
資本剰余金	23,074	-
利益剰余金	4,782,207	4,209,801
自己株式	△639,051	△364,482
株主資本合計	4,766,231	4,445,319
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	8,737	9,333
その他の包括利益累計額合計	8,737	9,333
非支配株主持分	1,134,066	1,125,297
純資産合計	5,909,034	5,579,950
負債純資産合計	11,890,179	11,021,694

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
売上高	3,556,927	4,197,388
売上原価	2,088,301	2,524,213
売上総利益	1,468,626	1,673,174
販売費及び一般管理費	1,108,487	1,446,556
営業利益	360,139	226,618
営業外収益		
受取利息	53	69
受取配当金	1	1
為替差益	16,716	13,377
貸倒引当金戻入額	6,749	3,750
持分法による投資利益	4,024	1,372
受取事務手数料	6,249	7,680
その他	3,308	2,648
営業外収益合計	37,103	28,900
営業外費用		
支払利息	2,687	6,127
その他	2	4,366
営業外費用合計	2,689	10,493
経常利益	394,553	245,024
特別損失		
減損損失	810	-
特別損失合計	810	-
税金等調整前四半期純利益	393,742	245,024
法人税、住民税及び事業税	24,211	28,620
法人税等調整額	92,063	111,985
法人税等合計	116,274	140,606
四半期純利益	277,467	104,417
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,245	10,305
親会社株主に帰属する四半期純利益	278,713	94,112

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
四半期純利益	277,467	104,417
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	744	596
その他の包括利益合計	744	596
四半期包括利益	278,212	105,014
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	279,457	94,709
非支配株主に係る四半期包括利益	△1,245	10,305

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	393,742	245,024
減価償却費	54,708	59,561
減損損失	810	-
のれん償却額	8,852	26,359
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△10,214	4,550
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△194,884	△230,630
受取利息及び受取配当金	△55	△70
支払利息	2,687	6,127
持分法による投資損益 (△は益)	△4,024	△1,372
売上債権の増減額 (△は増加)	△4,008	△199,083
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△79,116	26,999
仕入債務の増減額 (△は減少)	△48,202	13,007
前受金の増減額 (△は減少)	△420,756	△544,667
未払又は未収消費税等の増減額	29,460	△36,660
その他	108,503	154,967
小計	△162,498	△475,886
利息及び配当金の受取額	1	1
利息の支払額	△2,242	△5,728
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△60,101	△90,119
営業活動によるキャッシュ・フロー	△224,840	△571,732
投資活動によるキャッシュ・フロー		
固定資産の取得による支出	△52,361	△61,402
子会社株式の取得による支出	-	△10,000
貸付金の回収による収入	3,750	3,750
その他	△15,327	4,122
投資活動によるキャッシュ・フロー	△63,939	△63,530
財務活動によるキャッシュ・フロー		
借入金の返済による支出	△2,221	△51,042
リース債務の返済による支出	△18,113	△18,877
自己株式の取得による支出	△5,027	△174,913
配当金の支払額	△189,149	△213,717
非支配株主への配当金の支払額	△33,886	△19,073
財務活動によるキャッシュ・フロー	△248,397	△477,624
現金及び現金同等物に係る換算差額	17,435	13,274
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△519,740	△1,099,613
現金及び現金同等物の期首残高	5,866,968	5,826,271
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,347,227	4,726,658

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2024年5月10日の取締役会決議において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定及び会社法第178条の規定に基づき、自己株式の取得及び消却に係る事項を決議し、自己株式の取得及び消却を行いました。

この結果、単元未満株式の買取による増加も含め、自己株式が274,568千円減少し、資本剰余金が23,074千円減少しております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント							全社	合計
	教育	メディア コンテンツ	スタジオ・ プロダク ション	放送	技術	その他	計		
売上高	1,289,340	161,535	384,819	579,644	1,101,073	40,514	3,556,927	—	3,556,927
セグメント利益 又は損失(△)	475,314	△41,640	△797	17,673	112,313	△21,188	541,675	△181,536	360,139

(注) セグメント利益又は損失(△)における「全社」は、報告セグメントに帰属しない共通費用であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

報告セグメントの利益又は損失の合計額と四半期連結損益計算書の営業利益に差額があります。その差額の内容は報告セグメントに帰属しない共通の費用であり、グループ本社(ブロードメディア(株))の管理部門に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「メディアコンテンツ」及び「技術」セグメントにおける事業用資産について、減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間においてそれぞれ640千円及び169千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

「その他」セグメントにおいて(株)ポケットの株式を取得したことにより、同社を連結子会社としました。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第1四半期連結累計期間において120,322千円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント							全社	合計
	教育	メディア コンテンツ	スタジオ・ プロダク ション	放送	技術	その他	計		
売上高	1,661,358	126,937	359,822	582,623	1,298,697	167,949	4,197,388	—	4,197,388
セグメント利益 又は損失(△)	394,754	△41,808	△33,690	37,278	48,066	15,665	420,265	△193,647	226,618

(注) セグメント利益又は損失(△)における「全社」は、報告セグメントに帰属しない共通費用であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

報告セグメントの利益又は損失の合計額と四半期連結損益計算書の営業利益に差額があります。その差額の内容は報告セグメントに帰属しない共通の費用であり、グループ本社(ブロードメディア(株))の管理部門に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

(単位:千円)

	独自商製品等の ストック収益	独自商製品等の フロー収益	独自商製品以外 のストック収益	独自商製品以外 のフロー収益	外部顧客への 売上高
教育	1,289,340	-	-	-	1,289,340
メディアコンテンツ	-	42,768	107,569	11,196	161,535
スタジオ・プロダクション	-	384,819	-	-	384,819
放送	491,048	88,596	-	-	579,644
技術	91,697	93,438	908,297	7,640	1,101,073
アカマイサービス	-	-	882,055	-	882,055
その他	91,697	93,438	26,242	7,640	219,018
その他	6,513	28,840	-	5,159	40,514
合計	1,878,599	638,463	1,015,867	23,996	3,556,927

(注) 独自商製品等のストック収益とは、教育サービス・「放送」の視聴料・「技術」の企業向けクラウドサービス等、オリジナルサービスの提供等に伴う収益が該当し、原則継続的に積み上がる収益です。

独自商製品等のフロー収益とは、「スタジオ・プロダクション」や「放送」の制作・広告・スポンサーの収入等、オリジナルサービスの提供等に伴う収益が該当し、都度計上される収益です。

独自商製品以外のストック収益とは、「メディアコンテンツ」のコンテンツ配信や「技術」のアカマイサービス等、第三者が原権利を有している商製品の提供等に伴う収益が該当し、原則継続的に積み上がる収益です。

独自商製品以外のフロー収益とは、「メディアコンテンツ」の番組販売等、第三者が原権利を有している商製品の提供等に伴う収益が該当し、都度計上される収益です。

当第1四半期連結累計期間（自 2024年4月1日 至 2024年6月30日）

(単位：千円)

	独自商製品等の ストック収益	独自商製品等の フロー収益	独自商製品以外 のストック収益	独自商製品以外 のフロー収益	外部顧客への 売上高
教育	1,422,886	238,471	-	-	1,661,358
メディアコンテンツ	-	40,800	85,570	566	126,937
スタジオ・プロダクション	-	359,822	-	-	359,822
放送	483,109	99,514	-	-	582,623
技術	244,016	112,470	922,526	19,684	1,298,697
アカマイサービス	-	-	897,480	-	897,480
その他	244,016	112,470	25,046	19,684	401,217
その他	2,000	165,949	-	-	167,949
合計	2,152,012	1,017,028	1,008,096	20,251	4,197,388

(注) 独自商製品等のストック収益とは、「教育」の通信制高校事業や「放送」の視聴料等、オリジナルサービスの提供等に伴う収益が該当し、原則継続的に積み上がる収益です。

独自商製品等のフロー収益とは、「教育」のプログラミング教育事業や「スタジオ・プロダクション」・「放送」の制作・広告・スポンサーの収入等、オリジナルサービスの提供等に伴う収益が該当し、都度計上される収益です。

独自商製品以外のストック収益とは、「メディアコンテンツ」のビデオ・コミックサービスや「技術」のアカマイサービス等、第三者が原権利を有している商製品の提供等に伴う収益が該当し、原則継続的に積み上がる収益です。

独自商製品以外のフロー収益とは、「技術」の機器販売等、第三者が原権利を有している商製品の提供等に伴う収益が該当し、都度計上される収益です。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。